

教科名 第3学年振り返り講義②

責任者名 田中秀樹

学期 後期

対象学年 3学年

授業形式等 講義

◆担当教員

池田貴之 歯科補綴学准教授
松本邦史 歯科放射線学教授
小林真之 薬理学教授
浅野正岳 病理学教授
神尾宜昌 感染症免疫学准教授
田村宗明 感染症免疫学准教授
今井健一 感染症免疫学教授
岡崎章悟 感染症免疫学助教

◆一般目標 (GIO)

第2学年で学んだ事項を第3学年以降の科目の履修の基礎とするために、歯科学に関する知識の総合的な理解を深め、身につける。

◆到達目標 (SBOs)

特に共用試験で必要となる学修事項について格段の学力向上を図り、試問に対応できる。

◆評価方法

以下に示す2つの試験の総得点率50%以上を合格とする。

振り返り講義試験①(前期の定期試験期間に実施) 試験範囲は前期の振り返り講義の第1回～第28回とその関連事項。

振り返り講義試験②(後期の定期試験期間に実施) 試験範囲は後期の振り返り講義の第1回～第14回とその関連事項。

なお、各試験の得点率に応じて再試験を実施する。

総得点率は小数点以下を切り捨てて算出する(第1位を四捨五入しない)。

再試験後に2つの試験の総得点率が50%に達しない場合、当該年度の「進級判定及び単位認定の特例」から除外する。

◆オフィス・アワー

担当教員 田中秀樹

対応時間・場所など 月曜日 17:00～18:00衛生学講座(本館7F)

メールアドレス・連絡先 tanaka.hideki@nihon-u.ac.jp

◆授業の方法

第2学年で履修した科目の学修事項を、公的試験における試問の視点で講義形式で復習する。また、適宜、第3学年で履修中の科目との関連性を確認しながら講義を行う。なお、各講義内容についての質問はその授業担当者によること。

◆教材(教科書、参考図書、プリント等)

教科書1 顎口腔機能学、第2版、全国歯科技工士教育協議会、医歯薬出版、2024

教科書2 歯科放射線学、第7版、岡野智宏 他、医歯薬出版、2024

教科書3 現代歯科薬理学、第7版、鈴木邦明他、医歯薬出版、2024

教科書4 標準病理学、第7版、北川昌伸他、医学書院、2023

教科書5 口腔微生物学 -感染と免疫-、第8版、石原和幸 他、学建書院、2024

教科書6 病気が見える 免疫・膠原病・感染症、第2版、森尾友宏 他、メディックメディア、2018

◆DP・CP

コンピテンス4: 歯科医学および関連領域の知識

コンピテンス: 4-2, 4-3, 4-4, 4-6, 4-7, 4-8, 4-9

コンピテンス8: 生涯学習

コンピテンス8-1

対応するディプロマポリシー: DP3, DP4, DP8

◆準備学習(予習・復習)

予習では各授業回の学修項目に該当する教科書や配布資料に目を通して用語などを確認しておくこと。

復習では講義で振り返った事項について理解に至っていない事項を洗い出し、担当教員への質問などによって解決するとともに、振り返り講義試験②に向けて要点を整理すること。

◆準備学習時間

授業時間半分相当を予習あるいは復習の目安とし、自身の理解や知識の定着の度合いに応じて調節すること。

◆全学年を通しての関連教科

顎口腔機能学 (2年後期)
 歯科放射線学 (2年前期)
 薬理学1 (2年後期)
 病理学1 (2年後期)
 感染症免疫学 (2年前期・後期)

◆予定表

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当科目 担当教員	H28年度版コアカリ キュラム
1	AB	9月5日	3	顎口腔系の機能・構成, 下顎運動および咬合 教1) pp.1-71 資料配布	・2年時に学修した顎口腔系の機能・構成, 下顎運動および咬合について説明できる	池田 貴之	E-2-1)-②頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 E-2-1)-③咀嚼筋, 表情筋及び前頸筋の構成と機能を説明できる。 E-2-1)-⑥顎関節の構造と機能を説明できる。 E-2-1)-⑧咀嚼の意義と制御機構を説明できる。 E-2-2)-①口腔の区分と構成要素を説明できる。 E-2-2)-④歯列と咬合を説明できる。 D-1-①歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) の所要性質と用途を説明できる。
2	AB	9月8日	3	1) 放射線の生物学的影響 2人体に対する放射線影響 3) 医療における放射線防護 教2) pp.19-62 資料配布	・正常組織と腫瘍組織の細胞動態の相違点および正常組織と腫瘍組織の放射線感受性について説明できる。 ・確定的影響および確率的影響について説明できる。 ・放射線防護の目的・体系や被曝の行為の正当化, 最適化, 線量限度について説明できる。	松本邦史	E-1-2)-①放射線の種類, 性質, 測定法と単位を説明できる。 E-1-2)-②放射線の人体 (胎児を含む) への影響の特徴 (急性影響と晩発影響等) を説明できる。 E-1-2)-③放射線防護の基準と方法を説明できる。
3	AB	9月22日	3	基本薬理作用, 受容体 教3) pp.2-7, 36-38, 72-80, 134-140, 142-146 資料配布	・基本薬理作用および受容体の種類とその特徴について説明できる。 ・局所麻酔薬の作用機序について説明できる。	小林真之	C-6-2) 薬理作用 C-6-2)-② 薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-2)-③ 薬理作用を規定する要因 (用量と反応, 感受性) を説明できる。
4	AB	9月29日	3	骨格筋および平滑筋の収縮 教3) pp.116-132 資料配布	・骨格筋と平滑筋の筋の収縮および弛緩のメカニズムについて説明できる。 ・筋弛緩薬の作用機序について説明できる。	小林真之	C-6-2) 薬理作用 C-6-2)-② 薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-2)-③ 薬理作用を規定する要因 (用量と反応, 感受性) を説明できる。
5	AB	10月6日	3	薬物動態 教3) pp.15-22, 51-55 資料配布	・薬物動態について説明できる。	小林真之	C-6-3) 薬物の適用と体内動態 C-6-2)-② 薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-2)-③ 薬理作用を規定する要因 (用量と反応, 感受性) を説明できる。

6	AB	10月20日	3	炎症 形態学的分類 特異性炎 炎症のプロセス 教4) pp.33-36, 58-66 (2年時に使用した講義資料を持参)	<ul style="list-style-type: none"> 炎症の形態学的分類について説明できる。 特異性炎の種類と特徴について説明できる。 炎症のプロセスについて、急性炎症と慢性炎症の違いを説明できる。 	浅野正岳	C-5-5)-①炎症の定義と機序を説明できる。 C-5-5)-②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。 C-5-5)-③滲出性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を説明できる。 C-5-5)-④肉芽腫性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を説明できる。
7	AB	10月27日	3	腫瘍 定義 分類 異型性と分化度 教4) pp.239-255 (2年時に使用した講義資料を持参)	<ul style="list-style-type: none"> 腫瘍とはどのような疾患か説明できる。 腫瘍の生物学的および発生母組織による分類を説明できる。 異形成の種類と腫瘍の分化度との関係を説明できる。 	浅野正岳	C-5-6)-①腫瘍の定義を説明できる。 C-5-6)-②腫瘍の病因を説明できる。 C-5-6)-③上皮異形成を説明できる。 C-5-6)-④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 C-5-6)-⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 C-5-6)-⑥腫瘍の増殖、浸潤、再発及び転移を説明できる
8	AB	11月10日	3	細胞の損傷 循環障害 代謝障害 教4) pp.13-32, 165-189, 137-151 (2年時に使用した講義資料を持参)	<ul style="list-style-type: none"> 萎縮、変性、壊死などの退行性病変について説明できる。 充血、うっ血、虚血や血栓、塞栓などについて説明できる。 糖尿病や脂肪変性などについて説明できる。 	浅野正岳	C-5-2)-②変性と関連疾患の病態を説明できる。 C-5-2)-③疾患における壊死とアポトーシスを説明できる。 C-5-2)-④萎縮と仮性肥大を説明できる。 C-5-4)-①虚血、充血及びうっ血の徴候、原因、転帰及び関連疾患を説明できる。 C-5-4)-③血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。
9	AB	11月17日	3	1. 免疫 I 1) 免疫担当細胞 2) 自然免疫と獲得免疫 3) 体液性免疫と細胞性免疫 教5) pp.210-226, 232-257 教6) pp. 2-13, 26-27, 29, 173, 275 資料配布	<ul style="list-style-type: none"> 免疫担当細胞が列挙でき、それぞれの特徴が説明できる。 自然免疫と獲得免疫を分類でき、それぞれの特徴が説明できる。 体液性免疫と細胞性免疫を分類でき、それぞれの特徴が説明できる。 	神尾宜昌	C-4-2) 免疫 ①自然免疫の種類と機能を説明できる。 ②獲得免疫の種類と機構を説明できる。 ③免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。

10	AB	11月24日	3	<p>2. 免疫Ⅱ</p> <p>1) 抗原提示細胞</p> <p>2) B細胞とT細胞</p> <p>3) サイトカイン</p> <p>4) アレルギー</p> <p>5) ワクチン</p> <p>教5) pp.227-251, 262-278</p> <p>教6) pp. 3, 5-8, 14-26, 28-33, 37-43, 47-49, 57, 63-64, 95, 117, 121, 152-156, 275, 324</p> <p>資料配布</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・抗原提示細胞と内在性および外来性非自己の抗原提示が説明できる。 ・B細胞とT細胞の分化と種類、それぞれの機能が説明できる。 ・抗体の種類と機能を説明できる。 ・サイトカインが定義でき、主なサイトカインの役割が説明できる。 ・アレルギーが分類でき、それぞれの発症の機序が説明できる。 ・ワクチンが分類でき、それぞれの特徴が説明できる。 ・体液性免疫と細胞性免疫を分類でき、それぞれの特徴が説明できる。 	神尾宜昌	<p>C-4-2) 免疫</p> <p>④抗原提示機能と免疫寛容を説明できる。</p> <p>⑤アレルギー疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。</p> <p>⑥免疫不全症・自己免疫疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。</p> <p>⑦粘膜免疫を説明できる。</p> <p>⑧ワクチンの意義と種類、特徴及び副反応を説明できる。</p>
11	AB	12月1日	3	<p>3. 感染</p> <p>1) 感染の種類</p> <p>2) 感染症</p> <p>4. 一般細菌</p> <p>1) 細菌の分類と構造</p> <p>2) 細菌の性状と病原因子</p> <p>3) 主な病原細菌の種類と疾患</p> <p>教5) pp.16-131</p> <p>教6) pp. 35-37, 146-151, 157, 192-225, 226-263, 338-353</p> <p>資料配布</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染と感染症との違いを説明できる。 ・感染経路を分類でき、列挙できる。 ・細菌の構造とその機能が説明できる。 ・細菌の分類、性状と病原性を説明できる。 ・病原微生物の種類に関連する疾患名を説明できる。 	田村宗明	<p>C-4-1) 感染</p> <p>①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。</p> <p>②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。</p> <p>③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。</p>
12	AB	12月8日	3	<p>5. 特殊細菌</p> <p>1) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア</p> <p>6. ウイルス</p> <p>1) ウイルスの構造と分類</p> <p>2) ウイルスの感染形式</p> <p>3) 歯科に関連するウイルス疾患</p> <p>教5) pp.132-206</p> <p>教6) pp. 35-37, 146-151, 157, 192-225, 226-263, 338-353</p> <p>資料配布</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌および原虫を説明できる。 ・DNAウイルスとRNAウイルスに分類し、特徴と疾患名が説明できる。 ・歯科に関連するウイルスとその疾患が説明できる。 	今井健一	<p>C-4-1) 感染</p> <p>①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。</p> <p>②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。</p>

13	AB	12月15日	3	<p>7. 口腔内環境 1)口腔の体液 2)デンタルプラーク 8. う蝕 1)う蝕原性菌 2)う蝕の発症機序 教5) pp.282-331, 364-369</p> <p>資料配布</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・唾液と歯肉溝滲出液を説明できる。 ・口腔常在菌叢を説明できる。 ・デンタルプラーク（バイオフィルム）の構造と病原性が説明できる。 ・う蝕原性菌を説明できる。 ・う蝕発症の機序が説明できる。 	岡崎章悟	<p>C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。</p>
14	AB	12月22日	3	<p>9. 歯周病 1)歯肉炎と歯周病 2)歯周病原菌 10. 化学療法 1)化学療法薬の種類と作用機序 2)化学療法薬の問題点 11. 滅菌と消毒 1)滅菌法の種類 2)消毒法の種類 教5) pp.332-364, 370-417 教6) 134-147, 151, 174-191, 219, 270</p> <p>資料配布</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歯肉炎と歯周炎の違いを説明できる。 ・歯周病原菌の種類と病原性が説明できる。 ・軟組織および硬組織の炎症を説明できる。 ・化学療法薬の種類とその作用機序が説明できる。 ・薬剤耐性、菌交代現象と菌交代症が説明できる。 ・滅菌の定義、機序と代表的な滅菌法を説明できる。 ・消毒の定義、機序と代表的な化学的消毒薬を説明できる。 	岡崎章悟	<p>C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。 ④滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明できる。 ⑤化学療法の目的と原理及び化学療法薬の作用機序並びに薬剤耐性機序を説明できる。</p>